

保育園で「親育ち」

茅野市内の保育園で保護者全員を対象に2011年6月から始まった「一日保育士体験」の参加者が、今年10月で延べ3350人に達した。12年度は父親の約3割、母親の約6割が参加しており、今年度は複数の園が祖父母に対象を拡大した。無邪気に群れ遊ぶ園児との触れ合いが、子育ての幸せや親の役割を知る大人の「親育ち」につながっている。(唐沢宏)

父親の参加率上昇

「娘が友達とどうやって遊んでいるかを知ることができました」。11月下旬のみどりヶ丘・わかば保育園の年中組。8時間余り保育士体験をした自動車整備士の伊藤正則さん(36)は宮川はこう語り、すっかり仲良くなった十数人の園児を順番に持ち上げた。同時に「これだけ大勢の子どもをまとめるのは大変ですね」と苦笑い。保育士の仕事に理解を示した。

茅野市では、年度内に1回、自分の子どもがいる保育園で、朝の出迎えから夕方の見送りまで、保育士の仕事を保護者に体験してもらう。市教育委員会によると、保育士体験を丸1日、しかも保護者全員に求めているのは、諏訪地方では茅野市だけという。

茅野市の一日保育士体験



一日保育士として園児と遊ぶ母親(左)。家事や仕事をやりくりして園児と終日向き合う＝みどりヶ丘・わかば保育園

市教委によると、参加者は2011年度が1221人(参加率37・9%)、12年度が1476人(同45・3%)、13年度が653人(同20・9%)。参加者は年々増加し、特に父親の参加率が上昇傾向という。

話題
キャッチ

人間性引き出すきっかけに

子どもと共通の話題

参加者からは「参観日では見られない子どもの姿が見られた」「子どもと共通の話題ができた」「保育園のありがたみを感じた」などと肯定的な感想が寄せられている。

保育士には「これまでの保育の見直しができた」「保護者との距離が近くなった」などの意見がある。園児は自分の親が来る日を楽しみにしているという。

同事業を提案した、市の子育て分野の行政アドバイザーで元埼玉県教育委員長の松居和さんは「保育士体験をやる」と、保護者は他の子どもに対しても責任があると感じる。子どもも自分の親だけではなく他にも頼れる人、信じられ

一日保育士体験の参加者数



る人がいることに気づく。その瞬間にいじめがなくなる」とし、「幼児は大人の親心を育て人間同士の絆をつくり出す。保育士体験は人間性を引き出すきっかけになっている」と話している。

茅野市は、保護者の「参加率百パーセント」を目指し、家族や企業の理解を呼び掛けている。

一日保育士体験

茅野市子ども・家庭応援計画(どんぐりプラン)に掲げる施策「親育ち」の一環。新たな子どもの姿を発見し、親としての役割や責任を感じてもらおうのが目的。保育園と保護者の信頼関係を築き、保育士の資質向上につなげる狙いもある。